

油圧ディスクブレーキ DBL-10

取扱説明書



【取り付け】

DBL-10型ディスクブレーキの取り付けは、本体2か所のタップ穴を用いて行います。取り付けボルトはタップ穴に十分に深く入り、かつ長すぎないものを用意して下さい。長すぎた場合にはシリンダー破損の原因となります。タップ穴の径と深さはM8×14となっています。ボルトの締め付けトルクは17Nm {1.7kgfm} を目安にして下さい。

ディスクやレール（以下ディスク）は対向している2個のパッド隙間の中央に位置するように設置し、傾きや倒れは±0.1mm以下になるようにして下さい。この時、必ずディスクにパッドの全面が当たるように取り付けて下さい。パッドの全面がディスクに当たらない場合はピストンに無理な荷重がかかるため、ブレーキ作動不良や寿命低下、油漏れ等の不具合の原因となります。

取り付けに方向性はありませんが、できればブリードスクリューを上にして下さい。

【配管】

- (1) プラグを外し、Rc1/8 {PT-1/8} のジョイントを接続します。
- (2) 次にブリードスクリューを緩めエア抜きを行います。ブリードスクリューの先端に内径6mm程度のチューブを被せておくと、油の飛散を防止することができます。
- (3) エア抜き終了後、ブリードスクリューを軽く締めブリードキャップを被せて下さい。エア抜きが不十分な場合には、所定の力が発生しませんので確実に行って下さい。

⚠ 注意 背圧のある場合、パッドが戻らず圧力に相当するブレーキ力が発生します。確実に圧力が抜けるようにして下さい。

【パッドの交換】

制動エネルギーによりパッドは摩耗します。完全な保持として使用する場合にはパッドとディスクとの間に滑りが発生しないためにパッドの摩耗はありません。

構造上外部からパッドの摩耗量を確認することができません。次の(1)の手順で作業を行い、シリンダー表面からパッド表面までの深さを計測し、6mm以上あるようであればパッドの交換を行って下さい。使用限界は7mmです。

⚠ 注意 パッドは均等に摩耗することはありません。交換は必ず左右2個同時に行ってください。

パッドの交換は以下の手順で行って下さい。

- (1) ディスクブレーキを取り外した後に本体構成ボルトを抜き取り、2個のシリンダーとディスタントピースに分離します。この時、シリンダーとディスタントピースとの間にある固定用Oリングを紛失したり傷つけないように注意して下さい。
- (2) パッドが回転しないようにしてパッド固定用の皿小ネジを抜き取り古いパッドを取り外し、シリンダー内の汚れを拭き取り新しいパッドと交換します。
- (3) 新しいパッドを皿小ネジにて固定します。皿小ネジはパッド脱落防止のためにパッド回転に注意しながら強めに締めして下さい。脱出トルク5 Nm {50kgfcm} 程度の嫌気性接着剤（ネジロック）の併用も有効です。
- (4) 固定用Oリングをディスタントピースの溝に確実に入れて下さい。
- (5) 脱落や挟み込みに注意して本体構成ボルトを締め付けトルク25Nm {2.5kgfm} を目安に組み立てて下さい。

【シールの交換】

制動力、保持力が急激に減少したり、油漏れが発生した場合はシールの劣化が考えられます。シールの交換を行って下さい。シールは2種類、各2個です。劣化しているシールだけでなく**4個全てを交換して下さい**。使用しているシールはOリング（NBR・JIS B2401 1種A）の「P-22A」「S-8」です。入手が困難な場合には弊社に常時在庫しておりますのでお問い合わせ下さい。

DBL-10型はピストンに連結されたバネがシリンダー底部の溝に固定された構造となっています。その為、組立には専用工具が必要になります。シールの交換は基本的には弊社にご依頼下さい。

ユーザー様にて交換を行う場合には下記の要領で行って下さい。その時には**必ずバネも交換して下さい**。

- (1) **【パッドの交換】**の要領でブレーキ本体を分解し、ディスタントピースの両側からOリングを取り外します。
- (2) 次に少量のエアーを導入し浮き上がったパッドをつかんで下さい。パッドをピストンごと反時計方向（左回り）に回しながら引っ張るとピストンやバネごとシリンダーから外すことができます。バネは取り外した際に変形してしまいますので取り外し、再使用せず必ず新しいものと交換して下さい。
- (3) 各部品の油や汚れは拭き取って下さい。シールには薄くグリースを塗布し、傷つけないようにして組み付けて下さい。同時にシリンダー内へもグリースを塗布して下さい。グリースはリチウム石けん基グリース（鉱物系グリース）のちょう度1号または2号（JIS K2560）をご使用下さい。
- (4) 新しいバネをピストンの底部に帽子を被せるようにのせ、皿小ネジにて圧縮させながら固定します。脱出トルク5 Nm {50kgfcm} 程度の嫌気性接着剤（ネジロック）の併用も有効です。
- (5) すべての作業が完了しましたらバネがシリンダー底部の溝の中に入るようにして本体に組み込みます。正確に組み立てられていればパッドの面がシリンダーと同一面になります。
- (6) シリンダーとディスタントピースの接合面にある溝にOリングを確実にめ込み、本体を組み立てます。油漏れのないことを確認して下さい。

⚠注意 バネに触るときは端面などで怪我をしないようにご注意下さい。

作業の間パッドにグリースが付着しないよう注意して下さい。付着した場合にはシンナーなどで脱脂をして下さい。放置しますと制動力、保持力の著しい減少に繋がります。

本体構成ボルトの締め付けトルクは25Nm {2.5kgfm} を目安として下さい。

【ディスク・レール】

通常ディスク表面へのメッキの必要はありません。メッキを必要とされる場合には黒染め、あるいは亜鉛メッキをお勧めします。クロムメッキやニッケルメッキのような摩擦係数の小さな物は制動力や保持力の低下の原因となります。

ディスク板の材質はねずみ鋳鉄FC200～250〔FC20～25〕が最適です。鋼板を用いる場合にはS45C～S55Cの構造用炭素鋼を硬度HRC32から36程度に熱処理（調質）をして下さい。熱処理を省略した場合にはディスク表面へのむしれ、かじりの発生、パッドの異常摩耗、また鳴きの原因となります。また摩擦係数が安定せず制動力・保持力の低下に繋がります。

表面粗度は3S～6S（▽▽▽～▽▽▽▽仕上げ/研磨面）が最適です。ディスクの表面が粗い場合にはパッドの異常摩耗の原因となります。

【「空打ち」してしまった場合の対処方法】

本体内部にピストンを引き戻すバネが内蔵されていますので、ピストンに組み込まれたパッキンが露出していない程度であれば導入した圧力を抜くと原状復帰します。

ディスタントピースの厚み（B寸法）変更や片押しで使用されている場合は、ピストンが完全に抜け、内蔵されたバネで引っかかった状態になってしまうことがあります。

その時はピストンを手動でシリンダーの開口部に合わせ、軽く押し込むようにするとバネの力で原状復帰しますが、完全に戻らない場合はバネの変形が考えられますので交換が必要になります。

もしそのような状態になってしまった場合はピストンを抜き取り、下記写真右の新品状態と比較してください。写真左のようになってしまった（近い）場合はバネを交換してください。



抜き取った状態のバネ



組込前のバネ（新品）

安全上の注意点

ご使用の前に必ずお読み下さい。

品質管理には万全を期していますが、万一の故障としてブレーキが効かずに機械が暴走し、連続運転状態となることが想定されます。これらの故障に備え安全対策には充分ご配慮下さい。尚、取扱説明書は必要な時に取り出して読めるように大切に保管するとともに、必ず最終需要先までお届けいただけますようお願い致します。

⚠危険：改造や機能変更はしないで下さい

お客様における改造や機能変更起因し、思わぬ事故が発生する可能性があります。必ず弊社にご相談下さい。

⚠危険：安全カバーを必ず設置して下さい

回転中のディスク板が手・指など身体に触れますとけがのもとになります。身体が触れないように必ず風通しの良い安全カバーなどを設置して下さい。また、カバーを開けた時には回転体が急停止するように安全機構を設けて下さい。

⚠危険：水・油脂類は付着させないで下さい

摩擦面やディスク面に水・油脂類が付着しますと保持力・制動力・トルクが著しく低下するため、機械が暴走しけがの原因となります。

⚠危険：ボルトの締付トルク、緩み止めは確実に行って下さい

ボルトの締め付け具合によってはボルトがせん断し非常に危険な状態になります。必ず規定の締付トルクで取り付け、接着剤やバネ座金などで確実に緩み止めを行って下さい。

⚠危険：引火爆発の危険のある雰囲気では使用しないで下さい

高負荷の制動や連続スリップ時には火花が発生する場合があります。引火・爆発の危険がある油脂・可燃ガスなどの雰囲気などでは使用しないで下さい。また、綿、紙などの燃えやすい所では本体及びディスク板を密閉するようにして下さい。なお、密閉した場合には許容エネルギーが低下しますのでご注意下さい。

⚠危険：許容エネルギー以内で運転して下さい

高負荷の制動や連続スリップ時には発熱が大きくなりディスク板が赤熱する場合があります、火事や火傷の原因となります。必ず許容エネルギー以内でご使用下さい。

⚠危険：本体構成ボルトは緩めないで下さい

パッド交換時以外は緩めないで下さい。作動不良や事故の原因となります。

⚠注意：慣らし運転をして下さい

新規取り付け直後やパッド交換直後はディスクとパッドとが馴染んでいないために所定の制動力が出にくくなっています。低負荷で数分間の慣らし運転を行うことによって力が上昇してきます。

⚠注意：本体を落とさないで下さい

本体を持つ場合には落下しないように両手等で確実に確保して下さい。落下しますと足等のけがや製品本体の故障・変形の原因となります。

⚠注意：高発熱の時には強制冷却をして下さい

パッドの表面温度が上昇すると、制動力が減少しパッドの摩耗量が増加する傾向にあります。またパッドの摩耗量は摺速が早いほど増加します。パッドの表面温度が著しく上昇する（制動エネルギーが大きい）場合には送風、ベンチレートディスクや水冷ディスクなどの使用により強制的に冷却を行う必要があります。

⚠注意：パッドの交換は早めに行ってください

パッドは左右均等に摩耗することはありません。定期的に摩耗量の確認をして下さい。

⚠注意：環境が悪い時はダストカバーをつけて下さい

ダストシール（スクレーパー）は装着されていません。屋外使用、塵埃やオイルミストの多い環境では本体をダストカバーなどで保護して下さい。

⚠注意：高温！ 手を触れないで下さい

ブレーキやディスク板の表面温度はスリップ熱により高温になることがあります。手を触れますと火傷を負いますので運転中には触れないで下さい。運転停止後もすぐには温度が下がりません。

⚠注意：保持力は制動力に比べ低下します

完全な保持として使用するにはパッドとディスク板の馴染みが取りにくい為に摩擦係数が安定せず、制動力と比較し40%程度の力の減少があります。十分な安全率を与えて下さい。

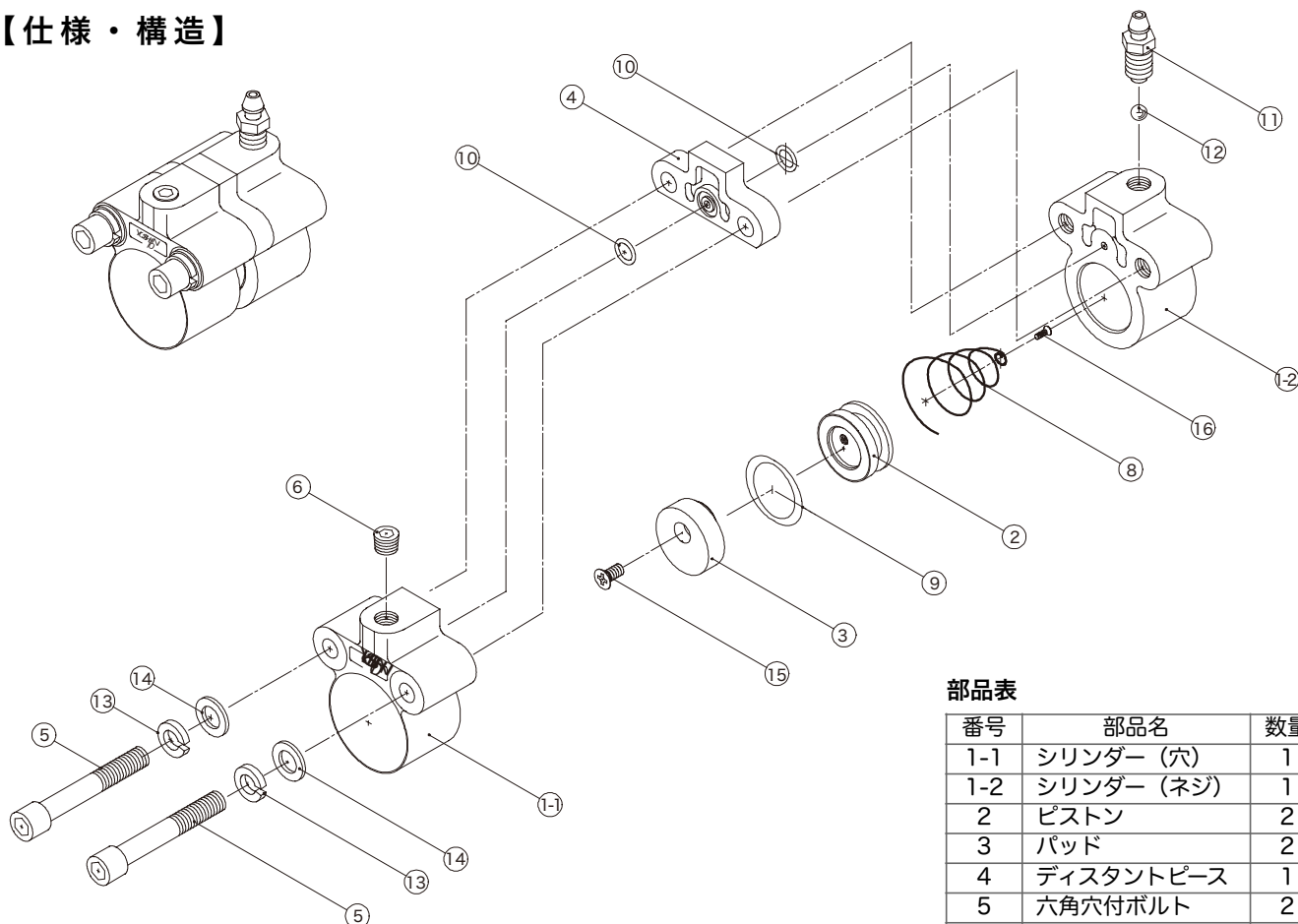
⚠注意：鉱物油をご使用下さい

作動油は石油系一般作動油（タービン、スピンドル、メカニク等）または水グリコール系作動油で粘度#22から#32の物を使用して下さい。ブレーキ液、リン酸エステル系、脂肪酸エステル系は使用しないで下さい。シール膨潤強いては油漏れの原因になります。そのまま使用しますと機能が低下し作動不良となります。

⚠注意：規定以上の圧力では使用しないで下さい

入力圧力は6MPa {60kgf/cm²} 以下で使用して下さい。油漏れや作動不良の原因となります。

【仕様・構造】



部品表

番号	部品名	数量
1-1	シリンダー（穴）	1
1-2	シリンダー（ネジ）	1
2	ピストン	2
3	パッド	2
4	ディスタントピース	1
5	六角穴付ボルト	2
8	バネ	2
9	Oリング（大）	2
10	Oリング（小）	2
11	ブリードスクリュー	1
12	スチールボール	2
13	バネ座金	2
14	平座金	2
15	皿小ネジ	2
16	皿小ネジ	2

仕様

制動力(6MPa時)	2.4kN {240kgf}
ピストン面積	6.16cm ²
常用最大圧力	6MPa {60kgf/cm ² }
適用ディスク厚	7mm
適用作動油	鉱物油
質量	0.40kg

ご不明点やご質問等ございましたら下記へご連絡下さい。



〒224-0044 神奈川県横浜市都築区川向町1354-1

TEL: 045-577-0095

FAX: 045-577-9817

E-Mail: info@yushin-brake.co.jp

www.yushin-brake.co.jp

